

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472500489		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモなおかわ		
所在地	大分県佐伯市直川大字横川508番地		
自己評価作成日	平成30年6月6日	評価結果市町村受理日	平成30年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472500489&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成30年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢化・重度化も進んでいる現状ですが、日常の支援において受容・共感することその人らしく過ごしていただける環境の提供を心がけ、個々を尊重し、職員のチーム力を活かしながら安心・安全のもとに1つの大きな家族という関係性を築くよう取り組んでいます。毎月、担当職員が入所者様の写真を添えたお便りを作成し近況報告しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐伯市の山間部に位置する事業所は、四季折々がなす、自然環境に恵まれ、ゆっくりとした時間が流れ、利用者は馴染みの景色と支援員に支えられながら、平穩に暮らしています。地域のふれあい祭りや施設が行う夏まつりなど、地域の参加を頂き双方向の交流が行われ、定期的にボランティアの訪問を得て、歌やアクティビティーなど楽しんでいます。食事は、出来るだけ個別に合うよう配慮され、利用者が楽しみを持って食事をされるよう支援しています。職員も研修等積極的に参加するなど、利用者の立場に立った支援に取り組まれ、利用者・家族が意見を言いやすい環境となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、基本理念を唱和して日々の業務に取り組んでいる。	地域密着型サービスの果たす役割を理解し、ケアカンファレンス、ミーティング等活用し、管理者・職員等で理念の共有に取り組まれ、支援の中において活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加し、施設の夏祭り・運動会等の行事の際は案内状を送付し参加して頂けるように努めている。	地域の行事には年2～3回ほど出かけ、施設開催の盆踊り大会等にも、お出で頂くなど双方向の交流に取り組まれ、地区内外ボランティアが毎月5～6回の施設訪問など地域との繋がりが強く伺えます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習等を受け入れ、理解してもらえるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告後、意見交換をしサービス向上に活かしている。	年6回の方針に基づいて、施設内の課題・地域の現状等の意見交換や自己評価・外部評価について報告を行い、意見・要望を共有し、改善策に取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で意見交換し、また研修にも参加し「SOSネットワーク事業」にも参加し協力関係を築くよう努力している。	認定更新や加算・制度改正等に伴い、介護保険係と協議、利用者の暮らしぶりやニーズの解決等について取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待拘束防止委員会を設け身体拘束をしないケアについて考え取り組んでいる。	身体拘束をしない研修を毎月行い、職員で共有し、支援の中で威圧を感じさせない配慮に取り組まれています。出て行く気配を感じたら、職員と一緒に外出され、落ち着いたら施設に帰るなど連携プレーに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待拘束防止委員会を設け内容を共有し職員に防止の徹底を意識付けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や研修・講習等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点については分かり易く納得できるまで説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、お便りを出す事で信頼関係を築き、面会時には近況報告を行い、意見・要望を伺い意見箱も設置している。	意見・要望等が生じた場合、真摯に対応され、利用者・家族が納得の行く配慮に取り組み、意見箱の設置や市役所、包括、国保連などに苦情・意見を申すことが出来ることを伝えていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や業務の中で意見交換し運営に活かしている。	支援の中で、運営に対する気づき・アイデアなどを研修会、ケア緩和等通じ、施設代表者・管理者へ伝えるシステムが構築され、意見の反映がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・成長をできるだけ把握するようにし現場に出向いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会の情報を回覧して受講するよう推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会・研修会や地域・地区の行事にはできるだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を傾聴し、受容・共感しできるだけ要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で互いに話をし納得、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員会議等で意見を出し合い、現時点で最適な支援を導いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、共に教え教わりながら過ごし、感謝する気持ちを忘れずに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況を伝え、よりよいケアにつながるようご家族にも協力していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望に応えられるよう、ご家族と相談して対応している。	本人の生活環境の中で、取り巻く人間関係を把握し、電話等の希望があれば、その交流・対応を支援され、利用者が戸惑うことのないよう、馴染みの職員が継続的に支える配慮がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・ドライブ等、できるだけ皆様に参加していただき関わりを作るよう心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設・病院に出向き、継続的な付き合いができるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりで、一人一人の思いや意向を把握できるよう努め、困難な利用者様に話を聞き少しでも聞き入れるよう努めている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、何をしたいのかなど、本人の表情等で希望の把握に努め、家族の意見も聞き入れ、日常の支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様との会話にてこれまでの生活状況を把握し、その人らしい暮らし方のサービス利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分なりに出来る事、理解力の確認など全体を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の希望を最優先して職員と話しながら介護計画を作成している。	身体機能の状況に変化が生じた場合や、介護認定更新など見直しができるよう配慮し、本人はもとより家族・担当職員の意見を聞き、本人本位の暮らしやすい計画作成に取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にチェック表やケース記録を用意し身体状況や様子を記入し引継ぎ時に職員へ申し送りしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望を優先して、職員と話しながら介護計画を作成し必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とふれ合い、心豊かに安心して暮らせるように協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の意向を優先して主治医を決め往診及び受診が出来るよう支援しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっています。訪問診療や通院での受診など複数の医療機関と関係を密に結び家族と協力しながら、利用者が適切に医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあった際には、かかりつけ医と看護師に連絡をとり相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細めに病院関係者や御家族と連絡を取り合い早期退院に向けて取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応出来るケアを説明し状態の変化があれば、すぐ御家族に連絡し医師と相談している。	本人や家族の希望を踏まえ、利用者の状態を考慮しながら、施設として出来ることを説明し、医師・家族と連絡を密に取りながら安心して納得した最期を迎えられるよう施設として支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ほぼ全員が救命救急の研修を受けており職員会議時、救急の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災設備会社の協力を得て消火器の使い方、災害時の通報の仕方の訓練を実施し月に1回、避難訓練をしている。	月に一度、施設内での避難訓練と年2回は外部の方の協力を得てさまざまな場面を想定しての避難訓練をしています。これからは、地域の方や家族の参加を視野に入れた訓練を予定しています。	少しでも早く地域の方や家族が参加されての訓練が実施できることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー個人の尊厳を損なわないよう常に念頭に入れ対応している。	職員全員の研修を通し、誇りやプライバシーを損ねないよう常に意識をもって日頃の支援に生かしています。職員同士で気になる対応があった時はお互いの対応を確認し合える体制を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えに対し話しやすい雰囲気作り努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個別の生活パターンを把握し一人一人その人らしく生活出来るように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあつた服装や髪の手入れ、爪切りなどの整容を常に心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で出来た野菜と一緒に収穫している。利用者全員で食事が摂れるよう工夫しています。	利用者が、食事をより楽しめるよう一緒に畑で野菜を収穫したり、気候がいい時は外のテラスでみんなで食事をしたり、最近では利用者の体調を考慮し、施設内のみんなで食事を楽しめる支援が増えてきています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない時は栄養補助飲料などにて対応して水分が1日を通じて摂れるよう職員間で意識を徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じて見守り、声掛けをして口腔内の清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄の失敗がないようトイレ誘導をしています。夜間帯のみポータブルトイレ使用の利用者もいます。	排泄チェック表を職員全員で常に確認できる体制が整えられ、利用者各人の自立に向けた支援と体調等に配慮しながら身体機能を生かした支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養バランスのとれたものが提供されている。便秘薬も併用しつつ水分を多めにとれるよう工夫し予防としては、毎日体操など体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の入浴時間は、決まっています。その日の体調、往診などで変わります。利用者個々に沿って支援しています。	利用者の気分と体調を考慮しながら、それぞれの利用者に合わせて入浴支援を行っています。ゆず湯や入浴剤を入れたり入浴を楽しんでもらえる支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の希望に応じて居間、ホール、居室で休息をとっている。寝られない時は声掛けなどで安心して頂いたり、布団の調節や空調で室温管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状態の変化がある場合、記録と報告をして情報の共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の役割を持たせるよう掃除、洗濯物たたみ、塗り絵、カラオケ等を楽しみながら行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気次第ですが庭先で日光浴を楽しんで頂き、月に1度のドライブにて利用者様の希望などを取り入れて季節に応じた場所に行っています。	自然に恵まれた環境の中、天気や体調を考慮しながら、日常的に散歩や日光浴を楽しまれています。月に一度のドライブや希望があれば馴染みの場所への外出支援など、柔軟に対応できる体制が整えられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、ほとんどいません。事務所で管理している方も数名です。あとは御家族が管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用を希望する際には事務所の電話を使って頂いており、手紙が届いた利用者様には、読み聞かせをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の花壇に季節の花を飾ったり植えたり、庭の草木を見て四季を感じて頂いている。またホールに季節を感じてもらう為、飾り付けをしている。	明るく、季節を感じる居心地のよい共用空間づくりに努めています。壁面には利用者と一緒に作った飾りや、お花は時々地域の方から頂くこともあります。家具の配置も利用者が一番使い易いよう考えられ、安心・安全に過ごせる工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごすか共有スペースで過ごすか利用者様に決めてもらっています。共有スペースにはソファや椅子を置き、くつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物を居室に置き、安心して過ごせるように心がけています。	馴染みのものを持ち込んだり、写真を飾ったり、居心地よく過ごせるための居室づくりをされています。利用者が安全、安心して過ごせるようそれぞれの方に添った支援に努められています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に廊下、トイレ、浴室に手すりを取り付けています。安全の為、見守りをしているが出来るだけ、出来る事はしてもらっています。		